

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第58回定時総会の報告	64
○2025年度名誉会員の推挙	65
○2026年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	65
○農業農村工学サマーセミナー2025参加者募集! 9月4~6日開催	66
○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2025”(再) 応募締切 7月31日	66
○FAXによる図書注文を廃止しました	67
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」の発刊	67
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	67
○CPD認定基準の一部改正(2024年度から)―「その他の自己学習(x)」の上限値等の見直し―	68
○CPD通信教育の問題と解答をホームページに掲載	68
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	69
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	69
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	71
○2026年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	71
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局	72
○第80回中国四国支部講演会および第49回地方講習会の開催案内(第1報) 講演申込締切 9月8日	73
○2025年度農村生態工学研究部会現地研修会の開催 申込締切 8月25日	74
○国際会議2025 カーカム会議の開催 8月19~22日開催	75
○第41回ファジィ システム シンポジウム/FSS2025の開催 9月3~5日開催	75
○混相流シンポジウム2025の開催 9月3~5日開催	75
○第68回粘土科学討論会の開催 9月10~12日開催	75
農業農村工学会論文集 内容紹介	76
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	77
学会記事	79

第93巻第8号予定

展望: ストックマネジメントにおける水路システムへの俯瞰的視点: 小川 亘

小特集: これからのストックマネジメントのあり方(後編)

報文: 柑橘パイプラインシステムの水利用機能の評価: 藤山 宗ほか

報文: 疑似漏水による農業用パイプラインの性能照査法の提案: 萩原大生ほか

報文: 袋型根固め工によるため池耐震対策のICT活用実証実験: 長岡誠也ほか

報文: 施設更新の選択肢を広げる建設用3Dプリンティング技術: 金森拓也ほか

報文: 老朽ため池の簡易長期調査手法の検討: 佐藤真理ほか

報文: 施設管理者が実施可能な水面移動型ドローンによる堆砂測量: 向井章恵ほか

技術リポート

北海道支部: 国営かんがい排水事業での小水力発電施設の導入検討: 谷口雄二ほか

東北支部: 取水トンネルを工事用道路に活用した狭隘地の頭首工改修: 畑山元晴ほか

関東支部: 若宮分水工における定比分水構造の検討: 中曽根七海

京都支部: 逆潮灌漑地域における高収益作物の導入を目指す排水計画: 伊田拓磨

京都支部: レベル2地震動に対するフィルダム耐震性能照査の留意点: 坂井孝太郎

中国四国支部: 老朽化したパイプライン施設の再編整備: 眞部一之ほか

九州沖縄支部: 琉球石灰岩地帯での水位観測結果を用いた排水解析と対策: 平良高範ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2025年9月 2～5日	大会運営委員会	2025年度（第74回） 農業農村工学会大会講演会 ㊦	—	宇都宮市	92巻12号 93巻1, 2, 3, 4, 5, 6号
2025年9月 4～6日	農業農村工学サマーセミナー 2025 実行委員会	農業農村工学サマーセミナー 2025	—	宇都宮市	93巻7号
2025年9月5日	農村生態工学研究部会	2025年度現地研修会	—	宇都宮市	93巻7号
2025年10月 23, 24日	中国四国支部	第80回支部講演会 第49回地方講習会 ㊦	—	松山市	93巻7号
2025年10月 30日	九州沖縄支部	令和7年度（第106回）支部大会 ㊦	—	熊本市	93巻4号
2025年11月 10日	関東支部	第76回支部大会 ㊦	—	千葉市	93巻6号
2025年11月 18日	京都支部	第82回研究発表会 ㊦	—	新潟市	93巻4, 6号

公益社団法人農業農村工学会第58回定時総会の報告

1. 日時 2025年5月28日（水）14：00～14：55
2. 場所 農業土木会館2階A会議室
3. 代議員現在数及び定足数
現在数 118名 定足数 59名
4. 出席代議員数 85名（内、出席3名、書面により議決権
を行使した代議員58名、委任状により議決権を代理行使し
た代議員24名）
5. 定足数の確認等
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定
時総会の成立を確認した。
6. 出席役員
会長 西村 拓、副会長 奥田 透、専務理事 小泉 健、監
事 堀田昇克
7. 議長の選出
事務局提案の渡辺 巧代議員を全員一致で議長に選出した。
8. 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、松田
祐吾、笹田勝寛の両代議員を全員一致で選出した。
9. 議案

決議事項

- (1) 議案－1 2024年度事業報告
専務理事から同議案について説明があり、事業計画に
掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提
示案どおり全員一致で可決した。

- (2) 議案－2 2024年度決算（案）
専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1
調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会
計の説明及び監事監査の報告があった。審議の結果、提
示案どおり全員一致で可決した。
- (3) 議案－3 名誉会員の推挙
専務理事から同議案について、21名の方の名誉会員推
挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致
で可決した。

報告事項

- (1) 報告事項－1 2025年度事業計画
専務理事から2025年度事業計画について説明があった。
- (2) 報告事項－2 2025年度予算
専務理事から2025年度予算について説明があった。
議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14時
55分議案の終了を宣言した。
以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び
議事録署名人がこれに署名捺印する。

2025年5月28日

公益社団法人農業農村工学会第58回定時総会
（議事録作成者）

議長 渡辺 巧
署名人 松田 祐吾
署名人 笹田 勝寛

2025 年度名誉会員の推挙

2025 年 5 月 28 日に開催された第 58 回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。

これにより名誉会員の現在数は、268 名となりました。

新規名誉会員（敬称略）

石黒 覚、大薄孝一、大坪義昭、門松經久、國弘 実、

國安法夫、向後雄二、齊藤政満、角田 豊、千家正照、
高橋日出男、樽石良一、長 裕幸、長崎泰樹、平松和昭、
広田純一、廣戸俊夫、宮田哲郎、毛受亨政、山路永司、
山田雅弘

2026 年度農業農村工学会賞候補の推薦

2026 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、
募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2025 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程
は学会ホームページをご参照ください。

2026 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績
		農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2020 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表したものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2022 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2022 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2024 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。	2024 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。	2023 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。	2020 年 10 月から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。
				原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人						
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村・地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2015 年 10 月 から 2025 年 9 月までに発表されたものとする。	2020 年 10 月 から 2025 年 9 月までにを行った活動とする。	2023 年 10 月 から 2025 年 9 月までにを行った活動とする。	2020 年 10 月 から 2025 年 9 月までにを行った活動とする。	2020 年 10 月 から 2025 年 9 月までにを行ったものとする。	2020 年 10 月 から 2025 年 9 月までにを行ったものとする。	2023 年 10 月 から 2025 年 9 月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっても全面改訂したもののみを対象とする。							2025 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2026 年度（第 75 回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2025 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

農業農村工学サマーセミナー 2025 参加者募集！

農業農村工学サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー 2025 の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマーセミナーのホームページや会告等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

1. 主催 農業農村工学サマーセミナー 2025 実行委員会
浦畑 夢（三重大学大学院生物資源学研究科）
浅野珠里（東京大学大学院農学生命科学研究科）
大塚健太郎（岐阜大学大学院連合農学研究科）
田崎小春（鹿児島大学大学院連合農学研究科）
近藤航樹（東京農工大学大学院連合農学研究科）
藤田直己（大阪公立大学大学院農学研究科）
中山美沙希（宇都宮大学大学院地域創生科学研究科）

2. 開催方式 現地のみ

（※本年度はオンライン開催を行いません）

3. 対象 学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究者
4. 日時 2025 年 9 月 4 日（木）学会終了後（夕方頃）

～6 日（土）正午頃終了予定

5. 参加費 未定

6. 企画内容 未定

※スケジュールの詳細・参加費・企画内容は、決まり次第、サマーセミナーのホームページに記載予定。

【過去の活動内容例】

2024 年度（ハイブリッド開催）：グループディスカッション 2 題（「あなたのオススメツールは何？研究活動に有用なツールを紹介し合おう」、「リング栽培アイデアコンペティション！～重労働を軽減する技術や仕組みを考えよう～」）、街歩き、現地見学（弘前市、青森市内）など

2023 年度（ハイブリッド開催）：グループディスカッション 2 題（「四国の農業農村の特色を話し合い、他県との違いを探す」、「耕作放棄地がどのように使われているかを調べ、新しい使い方を考える」）、街歩き、現地見学（松山市内）など

2022 年度（ハイブリッド開催）：グループディスカッション 2 題（「専門分野以外の NN 分野を知ろう」、「サマーセミナーのロゴを作ろう」）、親睦会、現地研修会（金沢市）など

7. 問合せ

Email : n.n.summer.seminar@gmail.com

URL : <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

n-n-summer-seminar



今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2025”（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2025 年 7 月 31 日（木）
2. 動画の制限時間 60 秒以内
3. 2025 年度のテーマ 「ここだけの！水土里」
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画を YouTube へ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1 作品） 2 万円
優秀賞（2 作品） 各 1 万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTube にアップロードする（9. 参考資料を参照）。
 - ③ タグに 3 つのワード（jsidre2025, こりゃ映像, 農業農村）を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT（new-suido@jsidre.

or.jp）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube 動画の URL）

9. 参考資料

・YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>

・スマホから YouTube に動画をアップロードするには
—Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像 2024 結果

最優秀賞：農村の課題解決の先に

富山県農林水産部農業経営課 平井裕貴

<https://youtu.be/G7auKni9nOc>

優秀賞：「ここにあった！農業農村の未来～吾妻しいって E なあ～」

内外エンジニアリング(株) 高谷凜太郎・柿沼愛海

<https://youtu.be/mJ1YO5WQarQ>

優秀賞：農業農村工学って面白い～大学院生の写真フォルダーを振り返って～
三重大学大学院生物資源学研究科 吉田 楓
<https://youtu.be/H7Zo8zxPiY8?feature=shared>

優秀賞：花の香酒造の取り組み「産土（うぶすな）」
九州大学大学院生物資源環境科学府 中村 遥・木原 昂
<https://youtu.be/bid0AcoxXhY>

FAX による図書注文を廃止しました

農業農村工学会事務局では業務効率化の一環として、2025年2月末をもってFAXによる図書注文を廃止いたしました。図書のご購入はE-mailにてご注文いただきますようお願いい

たします。
注文方法の詳細は学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/howtobuy/>) をご参照願います。

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」（農林水産省農村振興局編集）を令和6年10月に発刊いたしました。購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,760円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 173ページ

発行日：令和6年10月10日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 728ページ

発行日：令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では2025年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進

・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/）をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制

優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）

— 「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下で CPD が評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD 認定）」の運用が始まるなど、CPD の活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正當に評価するため、2024 年 4 月より、業務運営細則に定める「別表 2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要な CPD 運営体と同等の合計 30 cpd（現在は 20 cpd）となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表 2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

（改正後）

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	<u>x1</u>	0.5 H	10	—
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	<u>x2</u>	0.5 H	<u>20</u>	—

（改正前）

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	—
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	—

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4 判、1,500 字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 93 巻・第 94 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字程度)
第 93 巻第 8 号	これからのストックマネジメントのあり方（後編）（仮）	終了
	9 号 農村の振興や農業の有する多面的機能維持への貢献（仮）	終了
	10 号 農業農村工学における再生可能エネルギー利用（仮）	終了
	11 号 農業農村整備における情報化施工および BIM/CIM の現状とこれから（仮）	終了
	12 号 近年の豪雨による農業用ため池等被災に関連した調査・対策・研究（仮）	終了
第 94 巻第 1 号	2 号 アフリカにおける開発協力の活動事例と未来への展開（仮）	7 月 10 日
	3 号 農業水利施設の管理における情報通信技術の最前線（仮）	8 月 10 日
	4 号 農地・農業水利施設を活用した「流域治水」最前線（仮）	9 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第 94 巻第 1 号テーマ「アフリカにおける開発協力の活動事例と未来への展開」（仮）

2025 年 8 月に横浜で第 9 回アフリカ開発会議（TICAD 9）が開催される予定です。前回の TICAD 8 では、改めて日本とアフリカの関係強化が表明されました。アフリカの貧困は地

球規模の課題であるとともに、アフリカ市場は民間企業の商機として日本の国益とも合致することから、この関係強化の傾向は今後も長く続くと考えられます。このうち、農業分野の支援

では特に、生産現場の実態を踏まえて長期的に継続することが肝要です。サブサハラ・アフリカのコメ生産量の増加を目標とする「アフリカ稲作振興のための共同体」(CARD)においても、日本の稲作の知識、経験、技術力をもとにした支援活動が取り組まれています。

CARDは2008年時点の年間1,400万tから2018年には2,800万t以上へと、「サブサハラ地域でコメの生産量を10年間で倍増させる」目標を達成させました。この成功を受けて2019年にはCARDフェーズ2を立ち上げ、2030年を目標年として5,600万tへと、さらにコメ生産量を倍増させる次な

る目標を掲げています。この目標を達成するに当たって、CARDは倍増に至る道筋を重視しており、灌漑や低湿地開発をコメの生産安定化に向けた取組みに挙げ、住民参加型の小規模灌漑開発を具体的な活動として例示しています。このようにCARDにおける農業農村工学が果たす役割は大きいと言えます。

今後も成長を続けるサブサハラ・アフリカへの農業支援を加速させるため、将来展望を見据えた現場からの活動事例を広く公募します。今後の活動展開につながるような経験に基づく提言を含んだ失敗例も貴重な成果として大歓迎します。

学会誌第94巻第2号テーマ「農業水利施設の管理における情報通信技術の最前線」(仮)

農業水利施設の管理に重要な役割を果たしている水管理制御施設は、これまでは中央管理所に情報を集約し監視制御を行うオンプレミス方式が一般的でした。しかし、耐用年数が短いこと、長期利用するとメーカー保証の対象外となること、OSのアップデートに伴う監視制御プログラムの改造が必要になる等、維持管理に多くの費用を要することが施設管理者の大きな負担となっています。このような中、最近ではFA(Factory Automation)パソコンの代わりにPLC(Programmable Logic Controller)と呼ばれる安価な機器を採用する事例、クラウド方式と呼ばれる従来の中央の機能をメーカーのクラウドサーバーに集約する事例等、維持管理負担の軽減に資するシステムが実用化されつつあります。また、クラウド方式は令和6年10月に改訂された水管理制御方式技術指針にも記載されており、今後の水管理制御施設の一翼を担っていくことが期待されます。

このような新しい技術はメリットばかりではなく、データをメーカーに預けるため、セキュリティ上の不安やサービス終了の危険性があることや、サーバーとの通信にタイムラグが発生する可能性があり、ダムの緊急放流などの重要な操作への適用が難しい等の問題もあります。しかし、日進月歩で技術開発が進められていること、経験豊富な管理の担い手が減少していることを踏まえれば、このような技術が農業水利施設の管理での採用が増えていくことが考えられます。

そのためには、農業農村工学と情報通信分野の研究者・技術者が連携し、農業側のニーズと情報通信側のシーズを融合した新たな管理の方策を見出していく必要があると考えます。そこで、本小特集では、農業水利施設の管理における情報通信技術について最新の研究・技術の紹介や、それを現場で実装した事例紹介等に関する報文を募集します。

学会誌第94巻第3号テーマ「農地・農業水利施設を活用した「流域治水」最前線」(仮)

近年、極端な大雨の発生頻度が増加しています。気象庁の「気候変動監視レポート2023」によると、2014～2023年の時間雨量50mm以上の短時間強雨の平均年間発生回数は、1976～1985年の約1.5倍に増加しました。その影響で、全国各地で豪雨による甚大な水害や土砂災害が多発し、人命や社会経済に深刻な被害をもたらしています。このような状況を踏まえ、防災・減災の取組みとして「流域治水」の重要性が高まっています。

流域治水とは、従来の河川管理者が主体となっていく治水対策に加え、流域全体の関係者が協働し、水害を軽減する取組みです。2021(令和3)年11月に流域治水関連法が全面施行され、流域治水プロジェクトが本格始動しました。この取組みは、国・流域自治体・企業等などの流域の関係者が協働し、全国の700を超える水系で展開されています。一級水系で策定されている

119のプロジェクトのうち、107プロジェクト(2024年3月末時点)では、農地・農業水利施設の有する洪水調節機能を活用した流域治水(農業用ダムの事前放流、田んぼダムの取組み、および排水施設・ため池の活用など)が進められるなど、農業・農村が果たす役割は大きいといえます。そして、これらの取組みをさらに加速化・深化させることが求められています。

水土の知では2022年刊行の第90巻第6号で流域治水に関する小特集を行いました。その後の本格始動を経て、技術的知見が蓄積される一方で、新たなる浮かび上がった課題もあると考えられます。そこで、本小特集では、流域治水の取組みに関する最新の知見を共有することを目的に、農業農村工学に関連する流域治水の事例報告や、これらの取組みを評価する報文を広く募ります。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農

村工学会誌投稿要項」,「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会にて、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレ

ト)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記E-mail宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2026年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2026年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第94巻(2026年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは254×305

mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りします。

5. 締切 2025年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りします。

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第94巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2026年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History(表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、

氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称 : PAWE) を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまで PWE としておりましたが、2022年11月の国際集会以降は PAWE に統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2023年のインパクトファクター (IF) は1.9であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑輪換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界12カ国から Editor (22名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2024年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。

詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・ Editors 12カ国から22名

・ Editorial Advisors 27名

・ Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

・ Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Mr. Shutaro SHIRAKI

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2026年6月まで日本担当)

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで
員番号を明記の上、お申し込みください。

第 80 回中国四国支部講演会および第 49 回地方講習会の開催案内 (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、第 80 回支部講演会および第 49 回地方講習会を下記の要領で開催するので案内いたします。

1. 日程

(1) 支部講演会

日 時 2025 年 10 月 23 日 (木) 10 : 00 ~ 17 : 00
会 場 松山市総合コミュニティセンター 大会議室
(3 階), 第 1+2 会議室 (2 階), 第 4+5 会議
室 (2 階)
〒 790-0012 愛媛県松山市湊町 7-5
TEL : 089-921-8222

プログラム

受付開始 9 : 30 ~
開会式, 支部賞表彰式 10 : 00 ~ 10 : 25 (大会議室)
特別講演 10 : 40 ~ 12 : 00 (ク)
演題等調整中
<昼休憩> 12 : 00 ~ 13 : 00
一般講演 13 : 00 ~ 17 : 00 (大会議室,
第 1+2 会議室, 第 4+5 会
議室)

(2) 情報交換会

日 時 2025 年 10 月 23 日 (木) 18 : 00 ~ 20 : 00
会 場 えひめ共済会館
〒 790-0003 愛媛県松山市三番町 5-13-1
TEL : 089-945-6322

(3) 地方講習会

日 時 2025 年 10 月 24 日 (金) 9 : 00 ~ 12 : 00
会 場 松山市総合コミュニティセンター
大会議室 (3 階)
〒 790-0012 愛媛県松山市湊町 7-5
TEL : 089-921-8222

プログラム

受付開始 8 : 30 ~
講習会 9 : 00 ~ 11 : 40

① 新たな食料・農業・農村基本計画, 土地改良

長期計画について

農林水産省農村振興局整備部設計課
課長補佐 池谷拓二

② 土地改良事業計画設計基準 計画「排水」の改定について

農林水産省農村振興局整備部設計課
課長補佐 林みゆき

③ 情報化施工技術の活用ガイドラインの改定について

農林水産省農村振興局整備部設計課
課長補佐 大津太郎

閉会式 11 : 45 ~ 12 : 00

※ 地方講習会は、一部の講習が Web になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

※ 詳細については、中国四国支部 Web ページにも掲載しております。講演会での発表を希望される方は、Web ページに掲載される情報にもご留意ください。

中国四国支部 Web ページ (<https://www.jsidre.or.jp/tyugoku/>)



2. 講演申込み方法

(1) 講演原稿

投稿者は、中国四国支部 Web ページに掲載の「講演原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記の (7) 講演会発表原稿提出窓口までお送りください。

「投稿票」は中国四国支部 Web ページからダウンロードしてください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演発表者の方は、必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

(2) 講演資格

講演者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

原則として、1人1課題です。発表形態は口頭発表です。各講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式になります。

(4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、原稿は、モノクロで収録されます。

(6) 原稿の提出締切

2025年9月8日(月) 必着

(7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

愛媛大学大学院農学研究科地域環境工学コース

泉 智揮

〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7

TEL: 089-946-9886

E-mail: izumi.tomoki.mm@ehime-u.ac.jp

3. 参加申込み方法

(1) 参加申込書

参加申込みについては、中国四国支部 Web ページに掲載の「参加申込書」をダウンロードし、所属機関ごとにまとめて、下記の(5) 参加申込み窓口までメールでお送りください。その際、メールの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申込み」としてください。

(2) 申込み期限

2025年9月16日(火) 必着

(3) 参加費

・講演会 参加費【一般: 2,000円, 学生: 無料】

・情報交換会 参加費【7,000円】

・地方講習会 参加費【一般: 2,000円, 学生: 無料】

(4) 参加費の納入方法

原則として、参加申込みに併せて銀行口座に全額前納での振込みをお願いいたします。振込手数料については、振込人負担をお願いいたします。また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。なお、振込み後の参加費の返金については、原則として応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

○銀行名 伊予銀行 愛媛県庁支店(108)

○口座番号 (普通) 1839647

○名義人 農業農村工学会中国四国支部愛媛実行委員会 会計 山本秀明

(ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴクシコク シブエヒメジツコウイインカイ)

(5) 支部講演会、情報交換会、地方講習会 参加申込み窓口・問合せ先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課

瀬野、米山、小松

〒790-8570 愛媛県松山市一番町4-4-2

TEL: 089-912-2540

E-mail: nouchiseibi@pref.ehime.lg.jp

※参加申込みと講演原稿提出窓口は別となりますのでご注意ください。

(6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいませんので、各自での対応をお願いいたします。

2025年度農村生態工学研究部会現地研修会の開催

1. 趣 旨

本研修では、1990年代末の県営事業の導入を契機として保全活動が展開されている西鬼怒川地区を対象に、生態系保全活動が行われるようになった経緯、生態系保全活動を支える組織・技術など、持続的な保全活動を支えている取組みについて研修します。

2. 現地研修サイト

西鬼怒川地区(栃木県宇都宮市白沢町および下ヶ橋町)

3. 日 程

2025年9月5日(金)

4. 参加者

- ・大学・研究機関の研究者、学生、民間企業(建設コンサルタント)・土地改良区等の技術者など。
- ・農業農村工学会非会員の方も参加いただけます。

・20名程度(申込先着順)

5. 行 程

- 9:30 JR宇都宮駅東口集合、中型バス乗車後、現地へ移動(所要時間30分)
- 10:00~11:30 西鬼怒川地区:二段式水路・谷川保全地の見学
- 11:45~12:00 白沢公園:白沢公園の概要説明
- 12:00~13:00 グラウンドワーク活動センター:NPO法人グラウンドワーク西鬼怒の説明
- 13:30 現地出発(13:00)後、JR宇都宮駅東口にて解散

6. 参加費

無料(JR宇都宮駅東口から現地への移動にかかる交通費は当部会が負担します)。集合場所までの移動にかかる費用は各

自でご負担ください。

7. 申込方法

参加ご希望の方は、お名前、ご所属、連絡先（メールアドレス）をご記入のうえ（任意の書式で結構です）、以下メールアドレス宛に申込みをお願いします。

部会事務局担当 角道弘文（香川大学）

E-mail : kakudo.hirofumi@kagawa-u.ac.jp

申込み期限を8月25日（月）とします。

希望者多数の場合、受付をお断りさせていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

8. その他

暑さ対策は各自でお願いいたします。

国際会議 2025 カーカム会議の開催

1. 主 催 アメリカ土壌科学会（Soil Science Society of America）

後 援 農業農村工学会ほか

2. 期 日 2025年8月19日（火）～22日（金）

3. 会 場 J ヴィレッジ（福島県双葉郡楡葉町）および飯館村等

4. その他

詳しくは、2025 カーカム会議のホームページ（<https://www.soils.org/membership/divisions/soil-physics-and-hydrology/kirkham-conferences?q=membership/divisions/soil-physics-and-hydrology/kirkham-conferences/>）をご覧ください。

第41回ファジィ システム シンポジウム／FSS2025 の開催

1. 主 催 日本知能情報ファジィ学会（SOFT）

共 催 国際ファジィシステム学会（IFSA）

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 開催日 2025年9月3日（水）～5日（金）

3. 会 場 くまもと県民交流館パレア

〒860-8554 熊本市中央区手取本町 8-9

4. 問合せ先

FSS2025 実行委員会

E-mail : fss2025_committee@j-soft.org

5. その他

詳しくは、第41回ファジィ システム シンポジウム／FSS2025のホームページ（<https://soft-cr.org/fss/2025/>）をご覧ください。

混相流シンポジウム 2025 の開催

1. 主 催 日本混相流学会

共 催 神戸大学大学院工学研究科

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 開催日 2025年9月3日（水）～5日（金）

3. 会 場 神戸大学工学部

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1

4. 問合せ先

混相流シンポジウム 2025 実行委員会

E-mail : mfsymp2025@jsmf.gr.jp

5. その他

詳しくは、混相流シンポジウム 2025 のホームページ（<http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2025/>）をご覧ください。

第68回粘土科学討論会の開催

1. 主 催 （一社）日本粘土学会

後 援 農業農村工学会ほか

2. 開催日 2025年9月10日（水）～12日（金）

3. 会 場 産業技術総合研究所 臨海副都心センター

〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-26

4. 問合せ先

（一社）日本粘土学会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

E-mail : clay-post@as.bunken.co.jp

5. その他

詳細は、第68回粘土科学討論会のホームページ（https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/）をご覧ください。